

としょかん

# いわて

岩手県立図書館報

《特集》

## 知ろう、使おう、音訳図書

～視聴覚障がい者情報センター訪問記～

- レファレンスコーナー
- 児童コーナー わかば通信
- 岩手県内図書館紹介
- 図書館掲示板

2019.3 No.184

## contents

### 目次

ページ

01

#### 特集

知ろう、使おう、音訳図書 ～視聴覚障がい者情報センター訪問記～

- ・視聴覚障がい者情報センターについて
- ・もっと知りたい！ 視聴覚障がい者情報センターQ & A
- ・録音図書ができるまで

10

#### レファレンスコーナー

- ・空海が中国から持ち帰った物について知りたい。写真も見たい。
- ・金田一京助の随筆「錐と瓶」が掲載された資料を知りたい。

12

#### 児童コーナー

- ・わかば通信  
としょかん島の大冒険  
すごろくでキャプテン・ライブラリーになるのは誰だ！？

13

#### 岩手県内図書館紹介

- ・北上市立和賀図書館

14

#### 図書館掲示板

- ・第59回 岩手の読書週間  
読書推進標語・手づくり絵本入賞者、読書推進運動功績者
- ・編集後記



# 特集：知ろう、使おう、音訳図書

## ～ 視聴覚障がい者情報センター訪問記 ～

障害者差別解消法施行から2年。今年1月1日からマラケシュ条約に関連して、図書館界、印刷物へのアクセシビリティについて、ボランティア団体の音訳等図書作成など、より幅広い取り組みが可能になりました。各地の図書館でも新たな活動の開始や兆しが表れているかもしれません。

今回はアイーナに同居している「岩手県立視聴覚障がい者情報センター」を訪問し、インタビューや音訳体験をさせていただきました。読み聞かせの経験はあっても、音訳体験は初めての職員二人。

センターの皆さんからご指導いただき、トランヴェールの一節の音訳に挑戦しました。

※ 実際の声をお聞かせできないのが残念です。

視覚障がいをお持ちの方、加齢により活字を目で読むことが難しい方などに、音訳図書をおすすめしてみませんか？

新たな、または、ふたたび本の世界を感じていただけるのではないのでしょうか？

# 岩手県立視聴覚障がい者 情報センターについて

岩手県立視聴覚障がい者情報センターは、身体障害者福祉法第34条に定める視聴覚障害者情報提供施設です。平成18年4月、盛岡市盛岡駅西通1丁目7番1号「いわて県民情報交流センター」内の4階（一部2階）に開設されました。社会福祉法人岩手県社会福祉事業団が受託運営しています。

## 特徴

点字図書館と聴覚障がい者情報提供施設の二つの機能を併せ持ち、視聴覚障がいを持つ方々への情報提供の充実とコミュニケーション支援等の充実、福祉の向上と社会参加の促進に資することを目的としています。全国的に見ても視覚と聴覚、それぞれの障がいをお持ちの方々へのサービスを一つの施設で提供している例は少なく、多くは、それぞれ単独で設置されている状況です。

## 業務内容

- (1) 視聴覚障がい者用資料の製作等及び貸出
  - ① 点字刊行物及び視覚障がい者用録音物
  - ② 聴覚障がい者用字幕（手話）入りビデオカセット及びDVD
- (2) 奉仕員の養成（育成）事業及び派遣調整等、読書の奨励及び相談事業、コミュニケーション支援事業
  - ① 点訳・音訳奉仕員
  - ② 手話通訳者・要約筆者
- (3) 関係行政機関及び障がい者団体等と協力し、視聴覚障がい者の文化・学習・レクリエーション活動を援助するとともにその推進に努める。

## 運営方針

- (1) 点字図書館として
  - ① 点字刊行物及び視覚障がい者用の録音物（以下「図書」という。）の製作及び貸出し並びに閲覧事業を主たる業務とし、併せて点訳・音訳奉仕員養成（育成）事業、読書の奨励及び相談事業を行なっています。
  - ② 関係行政機関及び障がい者団体等と協力し、視覚障がい者の文化、レクリエーション活動を援助するとともに、その推進に努めています。
- (2) 聴覚障がい者情報提供施設として
  - ① 聴覚障がい者用字幕（手話）入りビデオカセット及びDVD（以下「DVD」という）の製作及び貸出事業や、市町村等が実施する手話通訳者・要約筆者等の派遣調整、あっせん、手話通訳者・要約筆者等の養成（育成）等のコミュニケーション支援事業を主たる業務とし、情報機器の貸出し及び聴覚障がい者に対する相談事業を行っています。
  - ② 関係行政機関及び障がい者団体等と協力し、聴覚障がい者の文化、学習、レクリエーション活動を援助するとともに、その推進に努めています。

## 利用者の範囲

- (1) 視覚や聴覚の障がいにより、身体障がい者手帳の交付を受けられた方、又はその家族
- (2) 視聴覚障がい者団体（当事者の団体、ボランティア団体、学校および施設）
- (3) 地方公共団体、その他所長が認めた団体又は個人

# もっと知りたい！ 視聴覚障がい者情報センター Q & A

Q1：センターには直接来館する方も多いですが、公共図書館への相互貸借や団体登録はどの位あるのですか？

A1：センターでは全国規模で相互貸借を行っています。墨字図書の音訳は、一つのタイトルにつき、全国で1館のみ出来ることになっているからです。こうすることで、複数館で同じ本を音訳するよりも、より多くの本を音訳することができます。現在登録している団体は、全国で289館、岩手県内では10館となっています。

No.	図書館名（50音順）
1	一関市立一関図書館
2	一戸町立図書館
3	岩手県立図書館
4	大船渡市立図書館
5	釜石市立図書館
6	紫波町図書館
7	花巻市立石鳥谷図書館
8	花巻市立大迫図書館
9	花巻市立東和図書館
10	花巻市立花巻図書館

Q2：マラケシュ条約の批准に伴う著作権法改正で何か変化はありますか？（※肢体不自由者が対象として加わったこと、一定条件下でボランティアグループ等が音訳等を行えるようになったこと）

A2：肢体不自由者への各種支援は、岩手県障がい保健福祉課が担当しており、現在のところセンターへの問い合わせはありません。センターに団体登録している館に録音図書等の

貸出要望があった場合は、相互貸借として受け付けます。

Q3：上記に関連して、資料提供における国際協力が可能になりましたが、何か変化はありましたか？

A3：今のところはありません。

Q4：DAISYデータのメール送信が可能になったことで、何か変化はありましたか？

A4：音声データはギガバイト級の容量となるため、電子メールでデータを送信できるよう回線環境等を整備しました。借受者側でも受信環境の設定が必要となるため、運用開始に向け現在検証を行っています。ですので、まだサービスの提供は行っていません。

Q5：墨字図書の点訳・音訳について、具体的に教えて下さい。

A5：

### ① 点訳、音訳等のボランティア

現在の登録人数は、点訳者が112名、音訳者が117名、DAISYデータ作成者が約60名です。

### ② 資料の選書について

選書基準に基づいた資料や郷土をテーマにした本・参考文献、また、斎藤純さん、北上秋彦さん、高橋克彦さん、柚月裕子さん、柏葉幸子さんなど、郷土出身作家の作品も優先的に取り上げています。利用者からのリクエストには広く応えるようにしています。

このほか、蔵書にはしないものの、個別対応としてお応えしている資料もあります。例えば、購入した家電品の説明書、自費出版本（日記・俳句集など）など、ごく個人

的であったとしても、その利用者にとって必要なものを音訳・点訳しています。

### ③ 気を遣う点

音訳に際してはアクセント、イントネーション、漢字に注意しています。前述したとおり、全国的に貸借する資料ですので、アクセント辞典を参考にしながら共通語で音訳しています。難しい熟語の説明は、前後の文章で意味が分かる場合は入れていません。ただし、当て字など、著者の思い入れがあるものは説明を入れています。

### ④ マルチメディア DAISY の製作

まだ始めたばかりで、完成するまで時間がかかっている状況です。

## 県内公共図書館への メッセージ

### まずは団体登録をお勧めします！

登録方法は簡単です！ センターのホームページに掲載されている様式に、必要事項を記載または入力の上、メールや FAX で送信して下さい。押印の必要はありません。

#### 団体登録のメリット

- 図書館間で直接対応ができるので、利用者へ素早く資料をお届けすることができます。
- 地域の図書館から高齢者施設などへの貸出が可能になります。
- 加齢による視力低下や来館が困難な利用者へのサービスが広がります。

※センターへの個人登録には「身体障害者手帳」が必要になります。

※サピエ図書館を利用するためには登録が必要になります。(年間登録料)

※センターでサピエ図書館に登録するにも身体障害者手帳が必要になります。手帳がないけれども登録したい場合は、日本点字図書館(東京)で登録出来ます。

### セット貸出

録音図書がメインとなります。専用機器もセットで貸出しています。専用機器と一緒になのですぐに使えるため、利用者の利便性も高まります。自館に専用機器がなくても大丈夫です。

### 体験スクール

点訳と手話の体験が出来ます。(基本的に交通費は必要です。)

過去の実例では、小学校4年時のハンディキヤップ体験、社会教育、民生委員対象の講座、公共図書館での機器展示などがあります。

#### <豆情報>

障害者差別解消法が施行され、イベント等を開催する際には、手話通訳士、点訳資料、会場内のガイド、盲導犬・介助犬の受け入れ、また付随して座席の確保等が必要となりました。これらは、主催者側が準備することが前提となります。

すでに自治体ベースで取り組まれているものと思いますが、手話通訳者の手配は事前に申請が必要になる場合がほとんどです。一度それぞれの自治体での申込先・申込方法などを確認されることをお勧めいたします。

## <体験記事>

# 録音図書ができるまで

録音図書やマルチメディア DAISY といった言葉は聞いたことがあるものの、それが一体どのような過程を経て製作されるのかまでは知らない方が多いかと思います。これらがどういった点に留意して制作されるのかを知ること、図書館サービスへの応用を具体的に検討できるのではないかと考え、岩手県立視聴覚障がい者情報センターの方にお願ひし、実際に録音図書製作を体験させていただきました！

## 音訳を始める前に

当日は、情報支援員の田上さんと、音訳校正員の齋藤さんに指導していただきました。お二人ともに、録音図書の製作を担当しています。

まずは、音訳とは、どのようなものなのでしょう？

音訳は「書かれている文章を書かれているとおりに」に音声に置き換える作業です。書かれている内容を音で正しく伝えるためには、はっきりとした発音で、聞き取りやすく話すことが重要です。ですので、発声練習はしっかり行っています。

また、アクセントを正しく発音することも大切です。同音異義語などは、アクセントをしっかりと付けなければ別の言葉になってしまいます。岩手で製作した録音図書であっても全国の利用者が使用しますので、あまり岩手訛りが強くないようにも心掛けています。

発声や発音以外でも何かポイントはありますか？

「くっきりと意味をかたまりで伝える」こと

を意識してください。文字面や読点に惑わされない、ということです。文章には読点とは関係なく、ここで区切らなくてはという意味の区切れがありますので、下読みが重要になります。

例えば「私の背の高さ位のリンゴがたくさんなっている木」という文章を読むとします。見て読む分には何を言おうとしているのか解るのですが、読み上げる際に「私の背の高さくらいのリンゴが、たくさんなっている木」と読んでしまうと、巨大なリンゴがたくさん生っている木ということになってしまいますよね。

また、「すっきり工夫して、わかりやすく」という点も大切です。お節介にならないよう、必要な部分を端的に伝えます。難しい熟語などは「この漢字とこの漢字で…」と説明したくなるかもしれませんが、日常使用する単語や漢字はそこまでしなくとも分かります。

一方で、漢字に振られたルビや注は、扱いに工夫が必要です。作家によっては、書名や文章中で当て字を使うことがあります。そういう場合は漢字の説明が必要になってきます。例えば「<sup>マントラ</sup>真言」という表記であれば、最初だけ「マントラ しんごん」と読み、以降はただ「マントラ」とだけ読んでいきます。作者がそういう読みをしてほしいという意図を持って振っているルビには注意が必要です。逆に、普通のルビであればいちいち漢字の説明はしません。

脚注があるものは、どこで注を読み上げるか工夫が必要です。文章の合間で長い注を読み上げてしまうと、話の流れが途切れて、わけが分からなくなってしまいます。段落が終わった後に注を読むとか、章の終わりでまとめて読むとか、方法は様々です。ごく短い注であれば、括弧書きのように捉え、そのまま説明してしまう場合もあります。例えば「アンゴラウサギ\_\_トルコ原産の毛の長いウサギ\_\_は、採毛を目的とした云々」といった感じになります。

## 音訳にチャレンジ!

音訳時の留意点を教わったのち、まずは発声練習を行いました。椅子に半分ほど腰掛け、背筋を伸ばし、腹から声を出す感じで。下を向くと声が下に行ってしまうので、前に向かって発生します。あえいう えおあお あおぞらたかい… (以下練習)

発声練習後に録音室へ移動。部屋には防音処置が施されており、周りから雑音が入らないようになっています。隣室ではちょうど、音訳ボランティアの方が録音作業を行っていました。

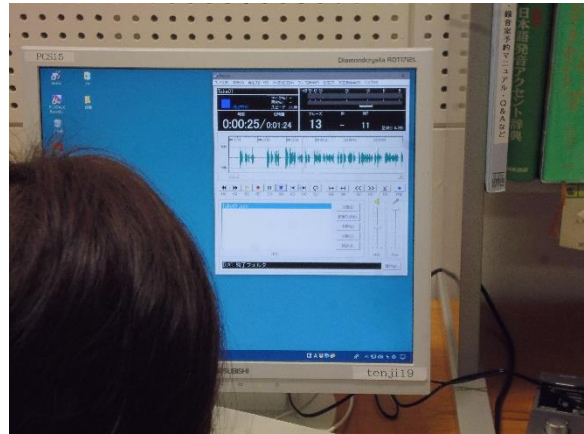
すぐに録音開始、という訳ではないのですね。マイクに何か機械がつながっていますが…?

オーディオキャプチャです。マイクだけではよい音にならないので、これを接続して録音しています。普段はヘッドフォンを装着して録音作業を行うのですが、今日は音訳体験ですので、ヘッドフォンは付けず、ドアも開放してやってみましょう。

録音する前に、まずは音響設定を行います。マイクの音量設定、騒音測定、テスト録音、そして収録、という流れになります。マイクは、自分の顔から握りこぶし一個分くらいのところに置くと良いです。音量設定、テスト録音、収録で同じ声を大きさにしていただくのが理想です。というのも、テスト録音で張り切り過ぎてしまうと、収録時の声が相対的に小さくなり、オーディオキャプチャが音量を持ち上げてしまうため、雑音を拾いやすくなるのです。

読み上げるテキストは『TRANSCENDENT』2019年4月号です。最後に製作者、製作完了日、製作協力者の氏名を入れてください。

では、テスト録音を始めましょう。文章を細かく区切りながら、16フレーズになるまで読み上げてください。今回は0.2秒以上の間があると1フレーズになるよう設定しています。



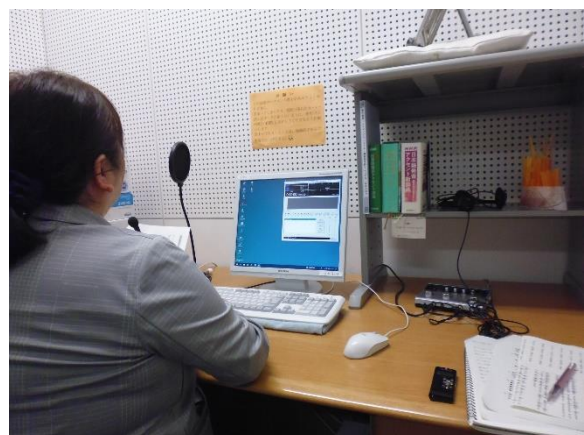
テスト録音では少しゆっくりと読みあげます

—テスト録音終了—  
こんな感じで良いでしょうか？

文章中の「花木 (かぼく)」のアクセントが違ってきますね。「かぼく ( ●●● )」ではなく、「かぼく ( ●●● )」です。読み間違えたらいったん止まり、その文の文頭から再度読んでください。それでは本番収録をやってみましょう。

—本番録音終了—  
今度はどうでしょうか…？

細かいことを言えば「2019年 (にせんじゅうくねん)」のアクセントが違ってきます。「じゅうくねん ( ●●●●● )」ではなく、「じゅうくねん ( ●●●●● )」です。直してみましょうか。



本番録音中



(部分的にリテイクするも何度もつかえる)  
頭では分かっている、なかなか直せないもの  
ですね…。

3回目の発音は良かったと思いますよ。それ  
では、間違ったフレーズを切り取り、3回目  
のフレーズをそこに貼り付けましょう。それを再  
生すると——自然なつながりになりましたね。  
良いと思います。

(※アクセントを意識するあまり、途中でつか  
えてしまい、それがプレッシャーとなりさら  
につかえるという悪循環に陥りました。〔編集 A  
談〕)

## 音訳校正にチャレンジ!

今回は音訳時に実地でアクセント指導をし  
ていただきましたが、実際には「音訳校正」と  
いう作業の中でチェックしていきます。校正体  
験では、実際にセンター利用者が使っている  
DAISY 図書専用の再生機器「プレクストーク  
(Plex talk)」を使用しました。CD-ROM、SD  
カード、USB メモリなど多種類のメディアに対  
応した再生機です。これを使って宮沢賢治「雨  
ニモマケズ」の音訳校正に挑戦してみました!



録音図書再生用の機器 (プレクストーク)

音訳校正とはどのような作業なのですか?

“音訳された音源が、原本どおりになっている  
か?”をチェックする作業です。著作権の一つに  
同一性保持権というものがありますので、誤読  
や、読み手の勝手な解釈で原本を読み替えたり、  
付け加えたりすることはできません。

校正のポイントは5つあります。「誤読がな  
いか」「アクセントがあっているか」「雑音がな  
いか」「音量は適切か」「間は適切か」、これら  
の点に留意していただくことで、利用しやすい  
録音図書になります。

では、これから「雨ニモマケズ」を音訳した  
ものを流します。手元の原文を見ながらチェッ  
クしてください。一行につき一つぐらいの頻度  
で修正が必要な箇所がありますので、よく聞い  
てください。

—チェック終了—

※以下、「雨ニモマケズ」の原文と対照しなが  
らお読みください。

さて、分かりましたでしょうか? では順番  
に見ていきましょう。

タイトルと一行目は問題ありません。二行目  
は前の行に比べると音量が小さくなっていま  
すね。三行目は「慾ハナク」の「よ」の音が消  
えてしまっていて、「\_\_くはなく」となってい  
ます。また、行末に十分な間がとられていない  
ため、次の行と地続きになってしまっています。

四行目は「玄米」を「はくまい」と誤読して  
おり、さらに「野菜」のアクセントが「やさ  
い(●●●)」になっています。ここは「やさ  
い(●●●)」です。五行目は、背後に雑音が入  
ってしまっていますね。六行目は問題ありません。

七行目は「林ノ蔭」を「きのかげ」と誤読し  
ています。同様に八行目は「病氣ノコドモ」を  
「びょうきのこ」、九行目は「稲ノ束ヲ負ヒ」  
を「いねのたばをせおい」と誤読しています。  
十行目は、行末の間が短過ぎます。十一行目は

問題ありません。十二行目は、最初の部分が前後の行よりも音が大きくなっています。

十三行目は「デクノポー」のアクセントが「でくのぼー ( ●●●● )」になっています。ここは「でくのぼー ( ●●●● )」です。また、「クニモサレズ」のアクセントが「くにも ( ●●● )」になっていますが、「くにも ( ●●● )」です。

そして最終行、最後までよく聞いていただくと、「ガタン」と何かを置く音が入ってしまっていますね。無音部分も含めて録音されますので、注意してください。

「野菜」のアクセントは、スッと入ってきて案外気が付かないものですね。

音訳者はアクセント辞典を参考にしながら読みます。校正者は『新明解国語辞典』や『大辞林』など必ず二冊以上の辞書を用い、センター職員はさらに『日本国語大辞典』なども参考にしながら校正作業を行います。

音訳は、できるだけ手直ししない方がきれいな仕上がりになります。音訳者によっては修正前と修正後の差が大きく、明らかに手直ししたと分かる場合がありますからね。ですので、アクセントについては間違いを探すよりも、このアクセントでの発音があるかどうかを探するようにしています。

## さらに、音訳にまつわる疑問をぶつけてみました！

今回は短い文章の音訳や詩の校正でしたが、実際のところ、録音図書の製作にはどのくらいの日数がかかるのですか？

文庫版の小説を読み上げると、大体5時間ばかりかかります。

音訳者の録音と自己校正に大よそ3か月、一校と二校はそれぞれ2週間ほどで行い、その後

センター職員が校正箇所をチェックして修正するかしないかを決めます。それを音訳者に戻し、修正してもらい、修正した箇所が合っているかどうかを再校正します。校正者が要修正とした箇所をセンター職員がチェックし、再度修正するかしないかを判断し、その後 DAISY 編集作業に移ります。

DAISY 編集では、ページ数を付けたり、見出しを付けたりと、プレクストークで再生するための編集を行います。料理本などは、作りたい料理の部分をパッと聞きたいですよね。ページを付けることで、目次を聞けば、ページを指定してすぐにその料理のレシピを聞けるようになります。データ編集が完了して、ようやく録音図書の完成です。

当センターでは1冊の本を大体7か月かけて製作していますが、本によっては1年くらいかかってしまうこともあります。

音訳ボランティアで活動される方は、どのくらいいるのでしょうか？ 中高生にも興味のある子はいるのでしょうか？

現在は117人の方に登録していただいています。ボランティアの平均年齢はだんだんと高くなってきています。ボランティアで音訳をするという感じではなくなっているのでしょうか…。

ボランティア活動を行う部活や放送部に入っている生徒など、興味を持つ生徒はいますが、時間に余裕がないのでボランティアとしての活動までには至っていません。

ポーカロイドなどの合成音声よりも、人の声の方が良いのでしょうか？

今は合成音声もとてもきれいになってきていますね。その声に慣れているかどうかの差だとは思いますが、今のところ、当センターの利

ユーザーからは人の声で読んでほしいという要望の方が多いです。センターではそのような読み方はしないようにしているのですが、極端な抑揚をつけて読んだり、すごく気持ちを込めて読んだものもあり、そういった読み方は聞いてとても疲れるので、合成音声のように淡々と読んでくれた方が聞きやすいという声もあります。

また、合成音声は図表や絵の説明ができません。音訳では例えば、写真がありますとか、人が二人写っていますとか、写真の説明を付け加えますが、合成音声では写真があるということ自体判断できません。地図なども、なんの地図かというキャプションがあったとしても、そのほかに例えば、ポーランドを中心とした地図ですとか、補足があった方が分かりやすいです。そして、それらの情報をどこに入れると聞きやすいのかも、合成音声は判断できません。さらに、最初にお話ししたとおり、読点のまま読むと意味が通じなくなるということもあります。読点を別のところに移すとか、文意を考えて読むということは、今のところ人間にしかできないことなのです。

録音図書は全国に貸し出しているのですか？

CD-ROMでの貸し出しも行っていますが、インターネット上に「サピエ図書館」というものがあり、製作したデータは音訳であれ点字であれ、そこにアップロードしています。データは利用者が個人でダウンロードすることもできますし、施設でダウンロードして使用することもできます。ダウンロード形式は、多くの方が一度に利用でき予約待ちがない、という利点があります。

また、サピエ登録館の中には、テキストデータをアップロードしている図書館もあります。テキストデータ化だけであれば、遅くとも3か

月くらいでアップしているようです。それこそ、合成音声で読み上げさせることもできますので、そういう使い方をしている図書館もあるようです。ただ、やはり人の声の方が良いという声もありますので、テキストデータだけという訳ではなく、その後で音訳したり点訳したり、ということになります。

話は変わりますが、岩手県出身者が連続して文学賞を受賞していますが、そういった本もすべて音訳しているのですか？

若竹さんの『おらおらでひとりいぐも』は、当センターで製作できました。沼田さんの『影裏』は、ほかの館が音訳しています。若竹さんの作品は、こんな面白い作品があるよと教えていただいたこともあり、たまたま受賞する前に音訳していたんです。

一冊の本は一つの館でしか音訳できませんので、音訳する際はサピエ図書館に“着手情報”と“完成予定日”を載せることになっています。その情報を見て、他の館で着手情報を上げていたら、うちでは音訳できないね、ということになります。柚月裕子さんの作品は全国的に人気で、『朽ちないサクラ』の着手をやっと上げられました。それも、ハードカバーは既に他の館が行っているので、文庫になった時にやっと、という感じです。

『アロマセラピー図鑑』なども音訳するのですね。図表が多く音訳が大変そうです…

鍼灸関係をやっている方から、仕事で使いたいというので、というリクエストがあり音訳しました。なかなか難しく時間がかかりましたが、意外にも全国で結構利用されています。

表はひたすら読むしかないですね。縦軸に何々の項目があり、横軸に何々の項目があり、パインは何々の効能がある、という感じでしょ

うか。過去には詰将棋の本を音訳したこともあります。7六歩とか、延々と読み上げます。将棋のことを分かっている音訳者と校正者を探し、製作していただきました。将棋関係だと、岩手高校の本も3冊ほど音訳していますよ。びっくりするほどいろんな本を音訳しています。

今は割と、中途失明の方が増えていて、その主な原因は糖尿病の合併症によるものです。ですので、健康関係の本が割と貸出数の上位に上がってきます。

中途失明の方だと、図表部分はある程度イメージしやすいのでしょうか？

イメージはできていると思いますが、やはりある程度説明しないと厳しいでしょうね。ただ、中途失明者の方は、色の説明を省ける場合があります。

写真の説明はちょっと注意が必要で、白黒写真は色を付けて言わない、写真を見てわかるものしか言わない、といった点に気をつけています。白黒写真を見て“黒い服を着ています”と言ってしまいそうになりますが、モノクロでは濃い色は全部黒になりますから、実際は紺色や赤かもしれない。また、ある石碑の写真があり、音訳者がその石碑を知っていて、写真に写っていない部分に何と書いているかを知っているとしましょう。この場合、音訳者は写真から分かることだけを説明し、写真に写っていない部分の説明をしてはいけません。

貸出ランキングを見ると、本当に色々なジャンルの本がありますね。『らくだい魔女シリーズ』とか、児童書もあるんですね。

児童書は大人も結構聞きますよ。柏葉幸子さんの作品は、ほとんど当センターが作っています。『トランヴェール』は、分冊して皆で音訳するので、5日くらいで仕上げています。

『君は月夜に光り輝く』という作品はだいぶ前に音訳しましたが、最近映画化されたので貸出上位にランクインしてきています。安藤百福の本なども、朝ドラが始まりましたからランクインしてきていますね。皆さん割と、テレビを情報源にしていますので、テレビで取り上げられると読んでみようかな、という気持ちになるのでしょうかね。

取材協力、どうもありがとうございました。なお、中途失明の原因には白内障や緑内障もあるそうです。おかしいと思ったら早めに医療機関を受診しましょう。興味を持たれた方は、ぜひ音訳にチャレンジしてみてください！



取材：姉帯裕子・安保和徳 [岩手県立図書館]

# レファレンスコーナー

県立図書館に寄せられたレファレンスの事例を紹介します。



Q. 空海が中国から持ち帰った物について知りたい。写真も見たい。

空海は、弘法大師の諡号(しごう)で知られている、真言宗の開祖となった平安時代の僧です。空海は、いったいどんな物を中国から持ち帰ったのでしょうか。まず『国史大辞典』と『国書総目録』で、空海や空海が記した目録を調べることから始めました。 (※諡号…貴人・僧侶などに、死後、生前の行いを尊んで贈る名)

## 【回答】

804年(延暦二十三年)、当時31歳の空海は遣唐使船で唐(中国)に渡り、「密教」を学びました。そこで長安の恵果(けいか)の六大弟子に名を連ねるほど認められます。空海は、806年(大同一年)に帰国し、たくさんの経典などを日本に持ち帰りました。

空海はそれらの物を『御請来(ごしょうらい)目録(もくろく)』に書き残しています。『御請来目録』は、単なる目録ではなく、留学成果の報告書になっており、空海研究の第一級資料として知られています。本文は『弘法大師全集 第1輯』で、現代語訳は『弘法大師空海全集 第2巻』で確認できます。『国書総目録』によると『御請来目録』は『御請来経等之目録』『上新請来経等目録表』等多くの別称があり、写本や刊行された書物が残されています。そのうち『新請来経等目録』は、国立国会図書館のデジタルコレクションで見ることができます。『御請来目録』を見ると、空海が経典のほかに曼荼羅や菩薩などの図画・仏像・法具など、多くの物を持ち帰ったことが分かります。空海は「現象界の物を通じてはじめて絶対真理を悟ることができる」と記しています。

空海が持ち帰った物のうち、現存しているのは、仏像や法具、図画や袈裟などで、国宝に指定されています。『国宝大事典』『日本古寺美術全集 13』『日本の古寺美術 12』等で写真を見ることができます。

調査を通して、空海が経典などの品物だけでなく、曜日や土木技術なども伝えたと言われていることが分かりました。1200年も前の空海の旅が、現代の私たちの生活に深く関わっていることに驚かされますね。

キーワード：弘法大師 密教 曼荼羅 御請来目録

## 【調査プロセス】

1. 事典で空海の基本情報を確認。
2. 国立国会図書館のデジタルコレクションで『新請来経等目録』を確認。
3. 『御請来目録』の現代語訳を調査。
4. 国宝・重要文化財に関する資料で、写真を確認。



## 【参考文献】( )内は当館請求記号

- 1 『国書総目録 第3巻』 岩波書店 1990 (R/025.1/コ1/3B)
- 2 『国史大辞典 4』 国史大辞典編集委員会 編 吉川弘文館 1984 (R210.03/コ6/4)
- 3 『弘法大師全集 第1輯』 弘法大師 著 祖風宣揚会 編 吉川弘文館 1910 (188.7/ムラ14/1)
- 4 『弘法大師空海全集 第2巻』 空海 著 筑摩書房 1983 (188.52/コ1/1-2)
- 5 『日本の古寺美術 12』 山田 耕二・宮治 昭 共著 保育社 1988 (702.17/ニ1/12)
- 6 『日本古寺美術全集 13』 集英社 1983 (702.1/ニホ/13)
- 7 『国宝大事典 1』 講談社 1985 (709.1/コク/1)
- 8 『空海』 頼富 本宏 監修 ナツメ社 2003 (188.52/クウ)
- 9 『新請来経等目録』 国立国会図書館デジタルコレクション  
<http://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/2532136> (最終アクセス日 2019年3月17日)



## Q. 金田一京助の随筆「錐と瓶」が掲載された資料を知りたい。

### 【回答】

質問者によると、盛岡てがみ館の企画展に、このタイトルの金田一京助自筆原稿が展示されており、内容は石川啄木に関するものだった、とのことでした。

まずは金田一京助関連資料にあたりました。『金田一京助全集』全15巻のうち、啄木関連の文章が収録されている第13巻を確認しましたが、該当作品は掲載されていませんでした。他の巻にも見当たらず、第15巻末の主要論著年表にも載っていません(※主要論著年表は、『金田一博士米寿記念論集』『金田一京助先生思い出の記』等にもありますが、『全集』第15巻のものが最も網羅的です)。『全集』第13巻末の解題に「金田一京助の石川啄木についての著作は(中略)諸雑誌や新聞に発表された文章も少なくない」とあるため、雑誌・新聞への発表のみで、単行本・全集には未収録の文章と考えられます。

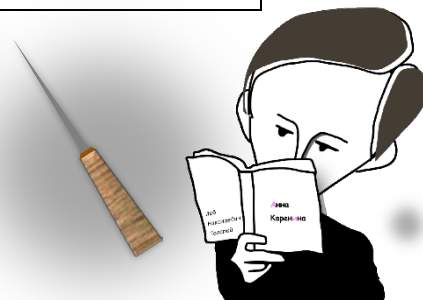
次に石川啄木関連の文献目録を確認しました。『石川啄木文献書誌集大成』は、明治34年～平成10年までに発表された、石川啄木関連文献の書誌を年代順に掲載し、著者名索引も付いています(平成11～29年分収録の続編、CD-ROM版あり)。金田一の著作は、啄木没後間もない大正2年から掲載されていますが、該当作はありませんでした。このほか『石川啄木事典』の「資料篇」、『石川啄木全集』第8巻の「戦後研究文献目録」等を確認しましたが、手がかりは得られませんでした。インターネット上に情報はないかと「NDL ONLINE」や、当館契約データベース「聞蔵IIビジュアル」(「朝日新聞」1945年～)、「ヨミダス歴史館」(「読売新聞」1874年～)を検索しましたが、ヒットしませんでした。

さて、当館の「石川啄木文庫」には、啄木研究の先駆者・吉田孤羊からの寄贈資料が含まれており、その中に、啄木に関する新聞切り抜きを集めたスクラップブック84冊があります。評論をはじめ、歌碑、映画、広告など多様な啄木関連記事が収集されています。大正末～昭和前期の新聞掲載作なら、この中にあるかもしれないと、1冊ずつ確認することにしました。すると『啄木関係新聞切抜7 啄木評論5』に該当記事を発見、「東京日日新聞」昭和15年5月29、30日に掲載された「思ひ出の種 錐と瓶(上)、(下)」であることがわかりました。内容は、金田一が長年愛用している錐は、元は啄木の物で、啄木との同居解消の際、たまたま花瓶とともに手元に遺った品であるという、日用品から亡き友を偲ぶ回想記でした。

キーワード：金田一京助 石川啄木 随筆 「錐と瓶」

### 【調査プロセス】

1. 金田一京助、石川啄木関連資料を調査 → 無し
2. NDL ONLINE、新聞記事データベース等を検索 → 無し
3. 「吉田孤羊輯 啄木関係新聞切抜」を確認 → あり



#### 【参考文献】( )内は当館請求記号

- 1 『金田一京助全集 第1～15巻』  
金田一 京助 || 著 金田一京助全集編集委員会 || 編 三省堂 1992～1993 (K/090/キ 1/57-1～15)
- 2 『石川啄木文献書誌集大成 [正]』 佐藤 勝 || 著 武蔵野書房 1999 (タク/910.268/サ)
- 3 『石川啄木事典』 国際啄木学会 || 編 おうふう 2001 (タク/910.268/イシ)
- 4 『石川啄木全集 第8巻』 石川 啄木 || 著 筑摩書房 1979 (タク/918.68/イシ/8)
- 5 『啄木関係新聞切抜7 啄木評論5』 吉田 孤羊 || 輯 (タク/ヨ 1/21-7)

※このレファレンスの詳細は「レファレンス協同データベース」で公開しています。是非ご覧ください。

「レファレンス協同データベース」 <http://crd.ndl.go.jp/reference/>

# 児童コーナー わかば通信

## としょかん島の大冒険 すごろくでキャプテン・ライブラリーになるのは誰だ!?



2月1日から28日の「こども図書館フェスティバル」の関連イベントとして開催しました。図書館の利用方法が、すごろくで楽しく遊んでいるうちに理解できるようになるイベントです。ゲーム中ではミッションが出題され、大人でも難しい図書館の分類法も分かるようになりました。最初にゴールできたチームは宝箱を手に入れ、図書館に詳しいキャプテン・ライブラリーになれます。参加者は1位を目指して最後まで諦めずにがんばりました!



棚の説明をききながら  
としょかん島へ向かいます  
もしかしてなにかのヒントかも?



「1番になる自信があるひと」  
という質問に元気に手をあげて  
くれた子ども達



イベントやミッションはマスを踏  
んでいない子も一緒に参加!



1分類の棚を見つけてタッチ☆  
ミッション無事成功!



サイコロを力いっぱい投げれば  
数の多い目がでるのかな?



もうすこしでゴールだ  
思わずガッツポーズ!



最後まで  
あきらめずに冒険できました!

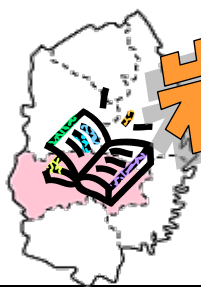


お楽しみの  
宝箱を開けて...

お宝



GET!



# 岩手県内図書館紹介

岩手県内各地の図書館を紹介いたします！



図書館名	北上市立和賀図書館		
所在地	〒024-0331 北上市和賀町横川目 11 地割 160 番地 TEL 0197-72-8307 / FAX 0197-72-8344 <a href="http://www.library-kitakami.jp/">http://www.library-kitakami.jp/</a>		
施設の概況と利用状況	開館		
	延べ床面積		359.14 m <sup>2</sup> (和賀図書館部分)
	構造		RC 3 階建 (和賀図書館は 2 階の一部)
	蔵書数		13,665 冊 (平成 31 年 3 月 1 日現在)
	登録者数		753 人 (平成 31 年 3 月 20 日現在)
	利用者数		5,329 人 (平成 30 年度)
図書館の特徴	<ul style="list-style-type: none"> <li>・和賀地区交流センター 3 階から北上市役所和賀庁舎 2 階に移転しました。</li> <li>・旧館より閲覧スペースが大幅に広くなり、おはなしコーナー、AV 視聴コーナーを新設しました。</li> <li>・歴史小説が充実しています。</li> <li>・館内 OPAC を設置しています。</li> </ul>		
主な事業など	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子ども映画会(16 ミリフィルムを使った映画の上映)</li> <li>・おはなし会(奇数月第 3 日曜日開催)</li> <li>・企画展示事業</li> </ul>		



# 図書館 掲 示 板

## 第59回 岩手の読書週間

### 読書推進標語・手づくり絵本入賞者、読書推進運動功績者

岩手の読書週間は、2月1日～14日までの“春を待つ、雪解け前の静けさの中で、本に親しもう”というスローガンのもと、岩手県独自の読書週間として昭和35年に設定されました。この期間中は読書週間を全県的に展開し、読書普及活動をおこなっています。

読書週間期間中の主催行事として、平成30年度「岩手県読書をすすめるつどい」が2月9日（土）にアイーナで開催され、読書推進標語と手づくり絵本の入賞者や読書推進運動功績者の表彰が行われました。読書推進標語の応募点数は999点、手づくり絵本は117点の応募があり、また、読書推進運動功績者としては1名と5団体が表彰されました。

手づくり絵本の応募作品は2月2日～2月10日まで県立図書館で開催した「第39回手づくり絵本展」で展示した後、一部作品を除き県内の図書館等で巡回展示が行われています。

最優秀賞、優秀賞は次の方々です。（敬称略）

#### 1 読書推進標語入賞者

**最優秀賞** 『これからも 二人三脚 本とオラ』

長澤 智子（宮古市）

**優秀賞** 『きょうはこれ まい日たのしみ よみきかせ』

千田 遼太郎（奥州市立常盤小学校2年）

『生き方の ヒントをくれる 一ページ』

小田嶋 花梨（紫波町立紫波第一中学校3年）



#### 2 手づくり絵本入賞者

##### <子どもの部>

**最優秀賞** 『りすのりいがもりにやってきた』

横田 雪音（軽米町立軽米小学校1年）

**優秀賞** 『おやさいのおともだち』

中崎 暖奈（滝沢市立滝沢南中学校3年）

『いろいろあるさんぽ』

山谷 颯（葛巻町立葛巻小学校3年）

『友のぼうけんシリーズ05 少年ニコリ』

長谷川 友信（北上市立黒沢尻西小学校4年）



## <一般の部>

**最優秀賞** 『おじいさんからのプレゼント』  
千田 成子（一関市）

**優秀賞** 『米子と糠子』  
坂待 典子（葛巻町）

『かんぴょうはどこにあるの』  
工藤 潤子（二戸市）

『ミシシippアカミミガメのミミーさん』  
佐藤 洋子（二戸市）



## <わかばの部>

**最優秀賞** 該当なし

**優秀賞** 『おいしいチョコレートケーキ』  
長谷川 野ノ花 長谷川 亜希子（北上市）



## 3 読書推進運動功績者

---

### ■おどつつあんS（宮古市） 代表 前川 克寿

平成20年に浄土ヶ浜のイベントで絵本を読んだことをきっかけに結成。宮古市立図書館での読み聞かせをはじめ、書店や復興市等で継続的に読み聞かせを行っている。また、三鉄おはなし列車イベントの企画・運営を手掛ける等、多岐にわたり活動しており、読書推進に多大な貢献をしている。

### ■図書ボランティア たんぽぽの会（花巻市） 代表 高橋 則子

平成17年に図書館から町内のボランティア団体や個人ボランティアに声掛けをして結成。大迫図書館との連携のもと、保育園や小学校、高等学校での読み聞かせや指導をはじめ、大型紙芝居の製作・公演を継続的にやっている。また、地元行事へも積極的に参加し、読書推進に多大な貢献をしている。

### ■たんぽぽおはなし会（雫石町） 代表 米澤 宏江

昭和62年に「おはなし講座」を受講した参加者で結成。雫石町立図書館での「たんぽぽおはなし会」をはじめ、ブックスタート事業に参加する等の活動を長年にわたり行っており、読書推進に多大な貢献をしている。

### ■人形劇サークル「じゃんけんぽん」(軽米町) 代表 湯川 友子

平成2年に「読書ボランティア講座」を受講した参加者等で結成。軽米町立図書館でのお話会「図書館ひろば」をはじめ、幼稚園・保育園等での読み聞かせや人形劇の公演等の活動を長年にわたり行っており、読書推進に多大な貢献をしている。

### ■一戸町読書母の会(一戸町) 代表 本田 良子

昭和50年に一戸小学校PTA親子読書会をきっかけとして結成。一戸小学校での読み聞かせをはじめ、町内の床屋・美容院等に貸出本を設置、文化センターでの読み聞かせ等の活動を長年にわたり行っており、読書推進に多大な貢献をしている。

### ■小田 靖子(雫石町)

ボランティアが使用する大型絵本を寄贈。



はじめに、今回の特集記事「知ろう、使おう、音訳図書 ～視聴覚障がい者情報センター訪問記～」に関して、お忙しい中ご寄稿・ご対応いただいた皆様へ御礼申し上げます。おかげさまで無事、第184号を発行することができました。

障害者差別解消法が施行されてから2年。各館におかれましても様々な対応に取り組まれていることと思います。視聴覚に障がいをお持ちの方から点訳図書や音訳図書などのお問い合わせを受ける機会もあるのではないのでしょうか？ 当館は、今回お話を伺った視聴覚障がい者情報センターと、建物の4階スペースで連携がとりやすい環境

になっています。しかし、改めてセンターさんで取り扱っている資料を知っているか、と問われれば、非常に心もとない状況でした。音訳体験ではアクセントの指導を受け、音訳校正では録音された声が訛っていても判らない、ということが判明しました。音訳図書は全国区で貸借されるため、共通語で読むことが必要になります。まずは共通語を耳に慣らさなければと痛感したのですが、すでに加齢により聴力が落ちているような・・・。「図書館のアクセシビリティ」や「ウェブサイトを国際基準のAAに準拠したもの」など耳にする機会が多いにも関わらず、ボーッとしていた自分自身に喝を入れつつ、この記事が皆様の業務の参考になればと編集しました。ご質問・ご意見がございましたら、メール・FAXなどご連絡いただければ幸いです。

新たな年度も図書館や利用者(将来の利用者も含め)にとって、有意義な紙面となるよう努めてまいります。今後ともよろしく願いいたします。

[編集担当:岩手県立図書館 企画広報課]



岩手県立図書館報

としよかん いわて

No. 184

発行日 平成 31 年 3 月 31 日

編集・発行 岩手県立図書館